

令和3年度第1回総合教育会議

令和4年2月14日（月）

会議次第

- 1 令和4年度教育に係る主要な事業案について
- 2 その他

令和4年度教育に係る主要な事業案

コミュニティ・スクール・地域学校協働活動推進員の導入	1
デジタルドリル導入	2
日新高等学校改革事業	3

令和4年2月14日

教 育 委 員 会

令和4年度教育に係る主要な事業案

(小中一貫教育推進室)

(社会教育部 青少年教育課)

事業名	コミュニティ・スクール・地域学校協働活動推進員の導入
事業概要	<p>コミュニティ・スクール（学校運営協議会を設置した学校）は、学校と地域住民等が一体となり教育目標を共有し、適切に役割分担しながら、学校運営の改善や質の高い学校教育の実現を目指す。</p> <p>本市としてはコミュニティ・スクールを導入することで、令和元年度より実施している東大阪小中一貫教育の更なる推進・発展を、また、学校を核とした地域ぐるみで子どもを育む体制の構築を目指し、令和4年度に盾津中学校区にモデル導入を行う。また、モデル校区としての実施に合わせ、地域教育協議会のコーディネーター役として地域学校協働活動推進員を配置し、積極的に地域に出向く中で学校と地域の情報共有に努めるとともに、地域活動の担い手となる新たな人材の発掘を進め、活動の充実やこれまでにない活動の実施を目指すものである。</p>

令和4年度教育に係る主要な事業案

(施設整備室)

事業名	デジタルドリル導入
事業概要	<p>令和4年度について、現在導入している「東京書籍 タブレットドリル」から、AIドリル（製品未定）に変更したい。</p> <p>AIドリルとは、児童生徒が提示された問題に対し誤回答した場合、どのような点に問題があり誤回答したのかをAIが分析判定し、問題点を克服するための問題を繰り返し提示する機能を有しており、国が掲げる「個別最適な学習」実現に適合するものである。</p> <p>また、令和2・3年度に、経済産業省の「EdTech 導入補助金」（学びと社会の連携促進事業費補助金）を活用し、一部小中学校でAIドリルの試験導入を行ってきた。試験導入先の教員からは、学力が中低位層の児童生徒の学力が向上した、今まで予習をしたことのない児童生徒がこれを使って予習をするようになった、という声が寄せられており、導入することで本市の児童生徒の学力や学習状況が変革されることが期待できる。</p>

令和4年度教育に係る主要な事業案

(学校教育部 高等学校課)

事業名	日新高等学校改革事業
事業概要	<p>この数年、日新高等学校の生徒の定員割れが続き、令和2年度の入学者選抜（令和3年度入学者）では、初めて全科（商業、英語、普通科）で定員に満たないこととなった。</p> <p>現在、学校改革を進めている中、変わりつつある学校を外部に広報、PRすることが課題となっている。</p> <p>昨年度より学校独自の組織『日新高校PRスタッフ』を立ち上げ、生徒目線の意見を取り入れてきたが、まだまだ広報不足であり、今後、組織の拡充を図るとともに、民間事業者からもアドバイスをもらい生徒確保に繋がる広報活動を行う。</p> <p>また、広報活動の中でも一番重要視している事業として、中学生、保護者等に高校を見学いただく「オープンスクール」、「学校説明会」に日新高等学校に縁のある著名人等を学校に招待し講演を行い、多くの中学生に関心を持ってもらい参加者を増やすことで進路選択の高校として認知してもらう。</p> <p>さらに著名人等の講演を、メディアに情報提供し日新高校のオープンスクール、学校説明会を幅広く発信する。</p>